第13回aacaサロン
継承設計の取り組み

会員増強委員会

開催日:2024年7月16日
話し手:三菱地所設計 野村和宣さん
モデレーター:NTTファシリティーズ 石原智也
会場:三菱地所設計本社(東京・丸の内)

第13回aacaサロンは、神奈川大学建築学部教授・三菱地所設計エグゼクティブフェローの野村和宣さんをお迎えし、歴史をつなぎ生まれ変わる建築を考える『継承設計の取り組み』について伺いました。野村さんは、登録文化財の耐震改修から歴史的建造物の復元にいたるまで、数多くの継承設計のご経験をおもちです。近代・現代建築の保存活用にあたっての課題として、歴史的価値の継承とあわせて収益を前提とした事業性をあげられた点に、実際の開発・設計に携わってこられた背景を感じました。

価値継承手法の選択においては的確な検討プロセスを踏む必要があり、計画の早い段階で①歴史的価値の位置づけと所在の確認、②機能向上・有効利用に関する課題、③まちづくりへの対応と諸制度の活用、の3つの指標による与件を同時に整理・方針決めすることが重要だそうです。ご紹介いただいたプロジェクトはどれも、それぞれの特質や苦労された点など興味深い内容満載でしたが、ここではその中からいくつかをご紹介します。

◎日本工業倶楽部会館・三菱UFJ信託銀行本店ビル
登録文化財である日本工業倶楽部会館の歴史的価値がどこにあるのかを整理し、特に1階玄関から2階大会堂、3階大食堂までの一連のシークエンスを継承すべきと位置づけ。保存・再現の範囲や関東大震災による影響を考慮しながら耐震補強方法をどうすべきかについて、10案のケーススタディを経て部分保存が望ましいと判断。新築建物の土台の上に免振装置を介して保存建物をのせ、構造上の課題克服と再開発を共存させた。大階段の手すりは戦時中の金属供出で木製にかわっていたものを竣工当時の金属製にもどしている。

◎JPタワー保存棟(旧東京中央郵便局)
吉田鉄郎設計の近代初期モダニズム建築の代表作として全体保存も検討されたが、事業面から最終的に2スパンの躯体を保存修理することにした。外観そのままに1階の床レベルを周囲にあわせて変更しバリアフリーに対応。オリジナルの形状を現代の工法で忠実に復元(復元的整備)を行った。

◎三菱一号館復元計画
1969年に解体された旧三菱一号館を再現。図面だけでなく解体した際に残されていた部材を確認しながら忠実に再現できるかを検証したうえで、実施を判断した。できるだけ創建当時の工法で再現したことも大きな特徴。

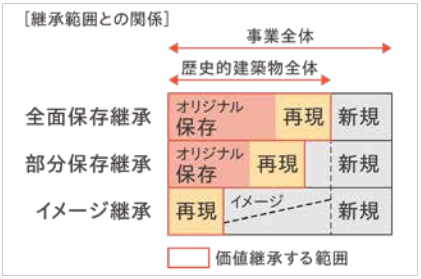
◎GINZA KABUKIZA(歌舞伎座・歌舞伎座タワー)
時代の要望に応えながら震災・戦災を経て改修・建て替えをおこなってきた民間の施設を、顧客に愛されてきた外観・内装・空間などの要素を大切にしながら再開発。歌舞伎座の正面が引き立たつように、舞台上部に設置したスーパーストラクチャーで高層棟を支えてセットバックさせた。鉄骨造で木造建築を表現する外装のディテールは、設計面・施工面で緻密な検討をへて実現した。

最後にアーカイブス化の取り組みとして4次元メタバースで歴史的建築物を再現するプロジェクトをご紹介いただきました。ゲーム感覚で過去と現在の建築空間を体験することができ、図面も参照しながら過去の建築を散策することができるもので今後の展開が楽しみです。

なお、野村さんは1985年から日本全国2,800カ所以上の集落を歩かれ、その記録を以下で公開されています。是非ご覧ください。

[集落町並みWalker]
・Web Site http://www.shurakumachinami.natsu.gs/
・YouTube ch. https://www.youtube.com/channel/UCf9uPmJgnaaoLMro1BM8Dcw

(NTTファシリティーズ 石原智也)



建築の保存活用にあたっては、価値継承と機能向上の両立が求められる。価値継承のためには、オリジナルの保存だけではなく再現が必要になる場合がある

会場の様子

三菱一号館

JPタワー保存棟

GINZA KABUKIZA